2025年4月6日（日）主日朝礼拝説教

『イエスの死』井上隆晶牧師
詩編22篇1〜9、15〜22節、マタイによる福音書27章45〜56節

❶【万物の終わりと万物の救いの始まり】

イエス様が十字架にかかられた時、自然界で不思議な現象が起こりました。こう書かれています。「**昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。**」（マルコ15：33）三時間に及ぶ暗闇です。イエス様のことを「義の太陽」といわれます。そのイエス様が死のう（沈もう）としているので、被造物である太陽も恐れて身を隠し、この方が神であることを証したのだと教父たちは解釈しました。詩編88篇はこの暗闇を予言しています。「**愛する者も友も、あなたは私から遠ざけてしまわれました。今、私に親しいのは暗闇だけです。**」（同19節）それだけではありません。イエス様が息を引き取ると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて死者たちが生き返りました。神殿の垂れ幕が裂けたのは、古い契約の終わりを象徴しています。地震は古い世界の終わりを現わしています。
旧約聖書ではこの太陽が暗くなる日のことを、「主の日」と呼びました。それはこの世の終わりに現れる神の裁きの日のことです。「**その日が来ると、と主なる神は言われる。私は真昼に太陽を沈ませ、白昼に大地を闇とする**」（アモス 8：9）とあります。「**終末**」という言葉を聞いたことがあると思います。聖書ではキリストが来られた2000年前から終末は始まっているといっています。神の子の体が破壊されたのに、この世が破壊されずに残るはずがないからです。キリストの死と共に万物は終わります。しかしこの暗闇の中で神は新しい創造を始めようとしています。この暗闇は天地創造の初めの暗闇でもあります。主の日は「裁きと救い」が同時に起こる日だからです。

❷【アダムの不信仰を癒されるキリスト】

3時にイエス様は大声で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれます。これを聞いてある人は「**この人はエリヤを呼んでいる**」と勘違いしました。そこで他の人が海綿に酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒につけてイエス様に飲ませようとします。「**人はわたしに苦いものを食べさせようとし、渇くわたしに酢を飲ませようとします。**」（詩篇69：22）の成就です。酸いぶどう酒は発酵して古くなったぶどう酒で古い契約を意味します。しかしイエス様はこれを受け取りませんでした。
この「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」は「**わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか**」という意味ですが、詩編の中でも預言されていた祈りでした。「**わたしの神よ、わたしの神よ、なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜ、私を遠く離れ、救おうとせず、呻きも言葉も聞いてくださらないのか。**」（詩篇22：1〜2）この叫びをどのように読んだらいいのでしょう。午後三時というと、エデ

ンの園でアダムが違反を犯して、神様の足音を聞いた時刻です。その時、神様は「**どこにいるのか**」（創世記 3：9）とアダムを呼びましたが、彼は神の顔を避けて隠れました。しかし今、キリストが暗闇の中で神に呼びかけますが、神は隠れて答えようとされません。詩編の中には「**いつまで主よ、隠れておられるのですか。**」（詩編 89：47）とか「**主よ、…なぜ御顔をわたしに隠しておられるのですか。**」（詩編 88：15）という祈りが出てきます。いくら神に祈っても返事がないことを「隠れる」という表現をしているのです。つまり、ここでアダムとまったく逆のことが再現されているのです。イエス様は神の顔を尋ね、叫び続けました。ここにどんな暗闇の中でも、どんなに理不尽なことが起こったとしても信仰を失わない人間を見ることができます。こうしてイエス様はアダムの不従順を癒されます。「神の名を呼び続ける！」これを信仰というのです。難しいことなんか分からなくてもいいのです。まず座って神の名を呼びましょう。

❸【捨てられたのは、人間と同じようになるため】

ガザで亡くなってゆく多くの子どもたちを見る時、「神よ、なぜ彼らをお見捨てになられたのですか」と祈りたくなります。

●イエズス会の司祭シルヴァノ・ファウスティはこう書いています。「十字架にすべてが現れている。…私たちは見る。命が死に、み言葉が沈黙し、主人が奴隷となり、十字架が王座となり、すべての頭である方が最後の者となり、裁き主が裁かれ、正しい人が罪人となり、祝福された方が呪われ、聖なる方が罪とされる、神は私たちとまったく同じ者となるためにご自分を捨てられる。」

「**わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか**」という祈りは、神から見捨てられたように思えるすべての人間の叫びを代表する叫びなのです。

●ダミアン神父がハンセン氏病療養所で働き、自らもハンセン氏病に罹ったとき、彼は「これで私もやっと彼らの友人となれた」といいました。同じものになってはじめて、心が一つに結ばれるのです。死んでゆく人間と同じように死ぬ者となって初めて神の子キリストは、人間と完全に一体になったのです。

イエス様は神様に見捨てられた経験をなさったのです。それは死ぬという経験です。決して死ぬことのないはずの神の子が、人間性において死ぬ経験をされたのです。それは、神様から最も遠ざかった地獄にいる死んだ人たちの所へ下って行くためでした。キリストが見捨てられなければ、見捨てられた人の所には行けないからです。**こうしてイエス様は徹底的に死ぬ人間と連帯されます。だから最早、誰も「私は神に見捨てられた」ということはできません。神はあなたを捜し求めて、地獄の底まで来て下さったからです。**こうして「**私はあなたたがをみなしごにはしておかない。**」（ヨハネ 14：18）が成就します。

私たち全人類と、父なる神の間には深い淵があります。それは死、闇、地獄という淵であり、不信仰という淵です。この死の淵を造ったのは神ではなく、人間で

す。人間は神を信じられずにこの深い淵を作り、神はこの闇の向こうにいると思っています。しかし、神はインマヌエルであって、いつも私たちと「**共に**」いる方です。だからこの神は、自分が作ったのではない深い死の淵の中に入って行かれるのです。**あなたを手に入れるために、あなたと共にいるために、神は死ぬ者にまでなってくださったのです。だた、敬意をもって、父と子の苦しみにひれ伏しましょう。**

❹【十字架にかかられたわれらの王キリストの僕になろう】

百人隊長や一緒にイエス様の見張りをしていた人たちは、これらの出来事を見て、非常に恐れ「**本当に、この人は神の子だった**」（27：54）と言いました。死と暴力に仕えていた兵士たちがなぜ信仰告白ができたのでしょう。ここには３回「**見張り**」（54）「**見て**」（54）「**見守って**」（55）と「見る」という言葉が出てきます。**彼が変わった理由はイエスの十字架から目を離さなかったからです。キリストをじっと見つめる者は必ず変わります。**

時間をかけて祈っていると、だんだんとキリストとの距離が近くなってきて、イエス様とのパイプが太くなってくるのです。詩編の言葉がぜんぶ入って来て、本当にこの通りだと思えるのです。自分の中にキリストが徐々に満ちて来て、自分がキリストを入れる器になるのです。すると祈ったことはすべて叶えられるように思え、悪霊を追い出し、手を置けば病気が癒されるように思えてくるのです。祝福本体であるキリストに直結するので、私が祝福する者を神も祝福されるのが分かるのです。何とすばらしい生き方でしょう。こんな私が神の業をするのです。神様の僕であることが嬉しくなり、あの方のためなら死んでも良いと思えてくるのです。

●救世軍の山室軍平の所に一人の人が出かけて行ってこう言いました。「わしが働いた金でわしが飲みたいもの（酒）を飲んでなぜ悪い？」すると山室軍平はこういいました。「あなたは酒を飲むことのために生まれて来たのか、もっとすばらしい、もっと大きなことをするために、多くの人に喜んでもらうために生まれてきたのではなかったのか」その言葉が彼の胸を刺し、やがてキリストの僕となって大きな働きをして召されたそうです。

私たちクリスチャンは、何のために信仰が与えられ、神の子にされたのでしょう。**私たちは神のステンドグラスになるように召されたのです。私を見た人がキリストを見るためです。ステンドグラスが濁っていたら、神の光を通さず、世にキリストの姿を映すことはできないでしょう。神の光が通りやすい者になるためには、神としっかりつながり、そのパイプを太くすることです。私たちはキリスト、十字架にかかったキリストの生き方以外をしてはいけないのです。それを真似て生きるように招かれたのです。**十字架についた茨の冠をかぶったあなたの王であるキリストを見続けましょう。百人隊長のように「**本当に、あなたは神の子です**」と告白し、王の僕になる再献身をしましょう。